

# きらきらひかる 中和っこ



## いよいよ夏休み。9月の再会を楽しみに待っています。

われは海の子白浪の さわぐいそべの松原に 煙たなびく とまやこそ 我がなつかしき住家なれ  
生まれて潮にゆあみして 波を子守の歌と聞き 千里寄せくる海の気を 吸ひてわらべとなりけり  
(文部省唱歌「われは海の子」)

保護者の方も小学校の時に歌った唱歌「われは海の子」。今も小学校共通歌唱教材として全ての教科書に掲載され、全国の小学6年生に歌い継がれています。この歌の誕生は1910年。100年以上多くの人に歌われた国民的愛唱歌です。海辺の村に生まれ育ちながら、実は私は泳げませんでした。この歌を音楽の時間に歌うたびに劣等感をおぼえたものです。もっとも遠浅の九十九里浜は子どもが泳ぐには難しい海でしたが……

今や安全で快適なプールがあちこちにあり、そこで泳ぐことが主流になりました。それでも、最近の調査結果によると海や川で泳いだことが「何度もある・少しある」と答えた小学生はおよそ80%。(裏面特集参照)

自然に親しむ体験が大切にされていることがよくわかります。

いよいよ始まる夏休み。お預かりした大切なお子さんをご家庭におかえしいたします。安全に気をつけて、たくさんの体験をして、ひとまわり大きくなった子ども達と9月に再会することを楽しみにしています。

## 68日間(1年生は67日)の一学期終わる ～きらきらひかる中和っこ～

4月8日(月)に始まった平成31年度。5月には元号が令和に変わり、本日一学期が終了しました。子ども達が力いっぱいがんばってくれたこと、そして保護者の皆様・地域の皆様のお力添えのおかげで充実した教育活動を展開することができました。本当にありがとうございました。今学期、特に心に残った、きらきらひかる姿を学年ごとに取り上げてみました。

**1年生** たくさんの初めてを経験してりっぱな中和っこになりました。初めて習うひらがなを熱心に学習しました。今ではかんたんな本も読めるようになり、図書室でうれしそうに読書していました。

**2年生** 植物や生き物を大切に育てていました。登校するとすぐに野菜に水をやり、また小さな生き物の水槽をきれいに掃除し、声なき声に耳を傾けられるやさしい心が育っています。

**3年生** 図画工作に取り組む時の笑顔がとても光っていました。アイデアをこらし、デザインや彩りを工夫し、個性的で、そしてすてきな作品をつくりあげました。みんなちがって、みんないい!

**4年生** 明るく楽しい、まとまりのあるクラスに育ってきました。上学年の仲間入りをし、委員会や運動会の係り活動にも全力投球していました。下学年のめんどうもやさしく見てくれました。

**5年生** 4月の遠足で見せた行動力とチームワーク。ルールを守って仲よく活動した姿はすばらしかった。白寿園の訪問で見せた思いやりあふれる姿、心を込めた贈り物や発表にもやさしさがあふれていました。

**6年生** 中和小のリーダーとしてみんながんばりました。係りの仕事にも競技にも全力で取り組んだ、運動会でのカッコいい背中。委員会活動や清掃で見せる誠実な仕事ぶり。みんなが楽しく生活できました。

明日からの夏休み。交通事故に気をつけて、楽しくすごしてください。

あの日のワンシーン



5月 旭市小学校体育大会



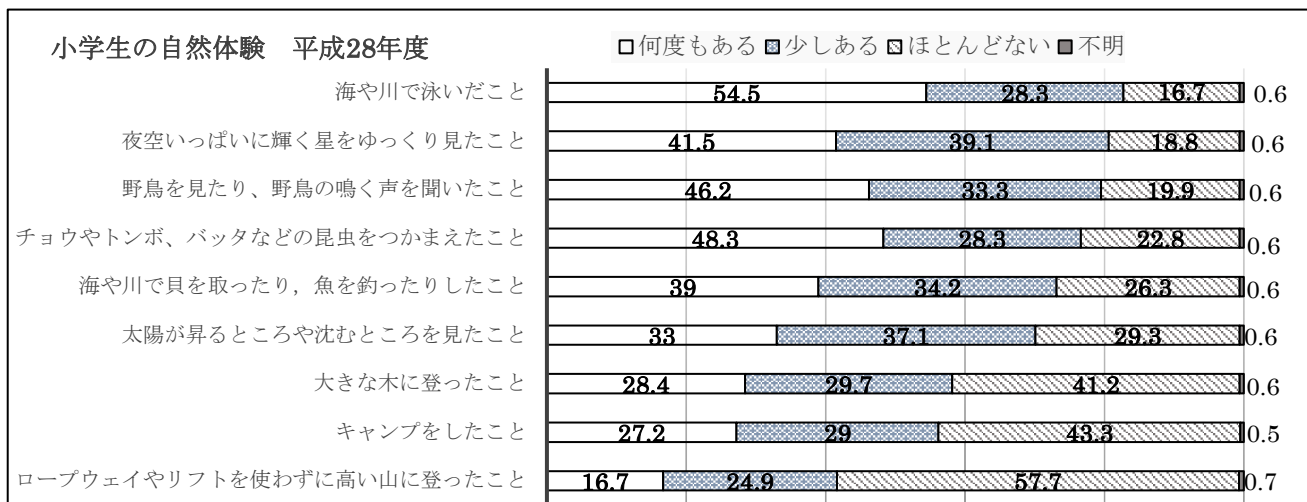
6月 5年生 合唱練習



7月 1年生 シャボン玉遊び

子どもたちの関心がゲームやスマホ中心になり、改めて子どもの体験活動の価値が見直されています。平成21年に国立青少年機構が行った青少年・成人を対象に大規模な調査を翌年、報告書にまとめ、その中で子どもの頃の体験がいかに大切であるかを明らかにしました。その後も調査は続けられています。広い世代を調査対象にしたことで、少年時代の体験が後の人生に及ぼす影響についても明らかにすることができました。表1は小学生（4～6年生）の自然体験についての平成28年度に実施した調査の結果です。


表1 小学生（4～6年生）の自然体験を体験した児童の割合（数字は%）



上のデータは全国の小学生を対象とした調査結果です。自然に恵まれた中和地区の実態とは多少差があるかもしれません。たとえば、鳥や虫とふれあう機会は、中和っことはもっと多いことが考えられます。それでも、空いっぱいの星をゆっくり見たことがない小学生が18.8%、太陽が昇るところや沈むところを見たことがない小学生が29.3%もいることには驚きます。またこのデータでは木登りやキャンプ・山登りについては体験したことがほとんどない小学生が多いようですが、みなさんのご家庭ではいかがでしょうか？

この調査から子どもの頃に自然体験や友だちとの遊び、地域活動などの生活体験、お手伝いを多く体験している人ほど、自己肯定感や、「何でもチャレンジしてみたい」といった意欲・関心が高いことが明らかになりました。そして、子どもの頃、体験が多かった人は、資料1のような自律的行動特性がよく身に付いていると自分を高く評価しています。そのため意欲や自信につながっていると考えられます。

資料1 自律的行動特性の観点と具体的な行動様式例

自 立 的 行 動 特 性	自律性: 人の話をきちんと聞く ルールを守って行動する 周りの人に迷惑をかけずに行動する 自分でできることは自分でする など	
	積極性: 自分の思ったことをはっきりと言う 先のことを考えて、自分の計画を立てる 困ったときでも前向きに取り組む 人から言われないでも自分から進んで行く など	
	協調性: 困っている人がいたときに手助けする 友達が悪いことをしていたらやめさせる 誰とでも協力してグループ活動をする 相手の立場になって考える など	

上のような行動特性は、自己実現に導く大切な資質であり、よりよく生きていく上でなくてはならないものです。小・中学生の時にこれらをよりよく習得した人は、主体的に行動し、積極的に自分の人生を切り拓きながら生きて行けるであろうことは容易に想像できます。

特別な体験、感動体験が子どもの心を大きく育てることはもちろんです。そして子どもの心を育てる体験は身近なところにたくさんあります。例えば、地域の行事や美化活動に参加すること。お家の人とおやつや料理を一緒に作って食べること。毎日のお風呂の掃除や皿洗い。小さな子どものめんどうを見ることや、もし赤ちゃんが身近にいたら、おむつを替えたりミルクをあげたりすること等々。

40日あまりの夏休みという真っ白なキャンパス。さまざまな色ですてきな思い出が描かれますように。

ご家庭の皆様・地域の皆様におかれましては子どもたちの見守りにつきまして、引き続きお力添えをお願いいたします。